

# 能登半島地震被災地輪島市門前町にて 発見した共同性は公共性となりうるのか

— 總持寺通り商店街管理部宮下杏里さんへのインタビュー調査から —  
辻 有花 (大矢根ゼミナール)  
HS21-1057C

## 論文の目次

概要

論文構成図

目次

はじめに

第 1 章 論文課題・仮説・方法論.....1

第 2 章 能登半島プログラムについて.....6

第 3 章 能登半島地震と輪島市門前町について  
.....19

第 4 章 地域社会における共同性と公共性...15

第 5 章 宮下さんへの聞き取り調査.....23

第 6 章 輪島市景観条例及び景観計画について  
.....30

第 7 章 考察.....32

第 8 章 結論.....34

第 9 章 残された課題.....35

謝辞.....36

参考文献・Web ページ..... 37

図表・一覧.....38

巻末資料

宮下杏里さんへのインタビュー調査

(2024 年 10 月 30 日) 聞き書きテキスト全文

..... 1

總持寺通り商店街マップ.....12

## 論文の要旨

### 1. 論文課題・方法

能登半島地震発生後の 5 月末、筆者は被災者支援のボランティア活動に参加し、輪島市門前町の「禅の里交流館」前の空間にて、印象的な

光景を目にした。それは、地域の住民同士が互いに名前を呼び合い、近い距離感で語り合う様子だった。特に高齢者が多い地域にも関わらず住民の中心で明るく、たくましく接する一人の女性の姿が強く印象に残った。一定の距離感を保つ東京のコミュニティとは異なり、一体感を持つ門前町でのコミュニティは何を元に育まれているのか疑問に思った。

そこで、印象に残った女性、宮下杏里さんへの聞き取り調査を中心に、それぞれ異なる背景を持つ門前町の地域住民が、何を梃子に一つの場所に集まるのかを明らかにし、輪島市門前町における共同性のあり方を田中 (2010) 『地域から生まれる公共性』の議論をもとに検討した。

### 2. 仮説

本論文においては、田中重好 (2010) による『地域から生まれる公共性』の議論を元に、「宮下さんは、地域の情報を豊富に持っているため地域住民から慕われている。」「能登半島門前町『禅の里交流館』は目的的共同性をもつ。(第 4 章にて説明する概念を使用)」「門前町の住民間に存在する共同性は公共性へと転換できる。」という 3 つの仮説を立てた。

### 3. 主な知見

總持寺通り商店街管理部宮下杏里さんへの聞き取り調査から、輪島市門前町の住民にとって總持寺や總持寺通り商店街は、宗教組織としてではなく、地域の共同の空間として関心が寄せられていることが明らかとなった。總持寺が重要文化財に認定されたという事実やニュース報道によって、地域住民は誇りを感じさせられるとともに、門前地域を離れて暮らす人々にとっ

でもそれは関心を引く話題となり、地域の共同空間としての存在感を高めている。

また、父親が行政職員として働いていた経験を持つ宮下さんは、「新しいことをすべて吸収していきたい」という想いを抱いている。宮下さんの職場である「禅の里交流館」は、地元住民が日常的に訪れるだけではなく、外部者との関係性の中で収集された情報の共有拠点として門前町の中心としての役割を果たしていた。

#### 4. 考察と結論

宮下さんが地域の情報を豊富に集めることができた要因として、地域に関する内情に関心を持つ「人柄」、父が行政職員であったという

「生い立ち」、職場である禅の里交流館が外部者との長い関係性の中で収集された情報を共有、交換する拠点であるという「存在意義」の3つが考えられる。

田中（2010）による議論を門前町に当てはめると、門前町での潜在的な共同性は、總持寺や總持寺通り商店街という、日常的に関与しつつも地域への誇りを感じ取れる場によって共同性への自覚を促進し「目的的な共同性」として存在している。

こうした、自らで意識的に関わり合うことで新たに創出される共同性は、「小さな公共性」

（林 2000）と呼ばれ、制度化された公共性を「大文字の公共性」、言説としての公共性を

「小文字の公共性」（田中 2010）として区別される。總持寺を中心とした門前エリアへの輪島市景観計画には、地域住民や関係者が、その歴史的・文化的な価値を守り、地域のシンボルとして大切にしようとする意識が見られる。筆者はこの景観計画を、共同性を制度化するものと捉え、輪島市門前町は「小さな小文字の公共性」から「小さな大文字の公共性」へと移転するプロセスにある地域の一例と考察した。

今後、本論文を手に取った方々にとって門前町への関心を深めるきっかけとなり、さらには輪島市における生活をより良いものにするための研究を行う一助となることを期待し結論とす

る。

#### 主要参考文献

有末賢・霧野壽亮・関根政美,1996,『社会学入門』,弘文堂

有賀喜左衛門,1938,『有賀喜左衛門著作 I』,未来社

有賀喜左衛門,1955,『有賀喜左衛門著作集 IV』,未来社

林泰義,2000,『市民社会とまちづくり』,ぎょうせい

広瀬盛明,2004,『人はなぜ逃げおくれるのか』,集英社新書

児玉善郎・小木曾早苗,2017,『東日本大震災被災地の災害公営住宅における住民支え合いの取り組みと今後の課題』,都市住宅学 99 号

佐藤郁哉,1992,『フィールドワーカー書を持って街へ出よう』,新曜社

孫大輔・浅見大紀・穂積 桜・林健太郎,2015,「プライマリ・ケア多種職による仮設住宅被災者に対する健康相談・心のケアプロジェクト『健康カフェ』」『日本プライマリ・ケア連合学会誌』,vol.38

田中重好,2007,『共同性の地域社会学 祭り・雪処理・交通・災害』,ハーベスト社

田中重好,2010,『地域から生まれる公共性—公共性と共同性の交点—』,ミネルヴァ書房

富安亮輔・狩野徹,2016,「内陸避難者が集う場に関する研究 東日本大震災における岩手県の事例考察」,『日本建築学会技術報告集』,pp.381-386

輪島市ホームページ,「人口・世帯数（最新）地区別人口（令和 6 年 10 月 1 日現在）」,2024 年 12 月 11 日閲覧

輪島市ホームページ,「輪島市の景観計画 2015 年 9 月 30 日公開」,2024 年 12 月 11 日閲覧

国土交通省,「地方振興地方振興 能登地域（富山県、石川県）」,2024 年 12 月 02 日閲覧